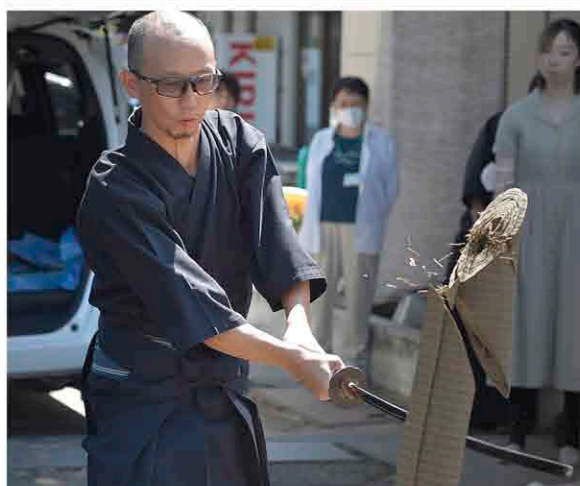


「夏期奉納試斬会（その1）」



今回の会報誌は、試し斬り初参加の会員様に記事をお願い致しました。

元新



令和五年七月一七日に久里浜八幡神社にて行われた夏詣と試斬会に初めて参加させていただきました。

安全を祈願し、お祓いを受けた刀を持つと身が引き締まり、改めて日々精進しなければと思いました。

試斬会では、初めて真剣を携えて頭が真っ白になり、稽古で先生に教わったことが何一つ出来ていなかったことが反省点です。

なんとか畳表を切ることが出来ましたが、畳表1枚が残ることが何度もあり、振りの甘さを痛感しました。素振り稽古に励み、次回の試し斬りでは確実に仕留められるようにしたいと思います。

先生はじめ、諸先輩方の姿勢や刃筋は素人の私が見ても大変美しく勉強させていただきました。

普段の稽古とは違い、試斬会は皆様の剣さばきを拝見できる良い機会で、次回開催も楽しみにしております。

最後に、畳表をご手配いただいた三宅さん、畳表の巻きから当日の片付けなど皆様のご尽力に感謝申し上げます。

井上洋一剣士

試し切りは、茹だるような暑さの中始まりました。先輩方や仲間達が、落ち着いた様子で刀を振り下ろし、美しい切り口と姿勢に圧倒される内に自分の番が回って来ました刀を渡された瞬間、「これが…日本刀かあ…！」と高揚したことを覚えています。

いざ、構えて一刀を入れようとした時…蝉の声、街の雑踏が消え、非日常空間が私を包んだと同時に、切れた巻藁は地に落ちていました。「あ…切れた…？」

間拔ですが、それは私が感じた一振り目の感想でした。

よし！この調子でドンドン切り進めるぞ！と雑念が入った途端、刀は藁の間で止まってしまい。笑いが込み上げました「笑うな。ふざけるな。今はただ、目の前を見て真剣に一刀を浴びせろ」そう言い聞かせ、刀を振り下ろしました。

斬り終えて散らばった藁を前にした私の脳は、アドレナリンに支配されてしまい、最後の血振りがまともに出来ず、何とも締まりの無い試し切りとなってしまいました。

「次回は、雑念の取り去り礼儀作法もしっかりと出来る様に稽古に励みたい」そう思った試し切りの日でした。



前田 剣士



三宅 咲綺剣士

小学6年生でこの試斬会を経験出来たのは、とても貴重な体験でした。

先生や他の人たちがズバズバと綺麗に斬っているのを見て、とてもびっくりしました。

そして本物の刀は重かったです。

振り上げるのが精一杯でしたので、左手で刀の柄の端を握り、バランスを取りました。

でも畳を斬れた時は、嬉しかったです。

畳が切れなかったときは、恐くて振り切りが甘いのと、素振りの稽古がたりないのかなと思いました。

夕食会は、皆さんの話を聞いたり、自分も話しが出来て面白かったです。

あまり外食はしないので、レストランでのハンバーグはとても美味しかったです。